

「希望は失望に終わることはない」

～わたしたちに与えられている希望のメッセージ～

「…そして私たちは、私たちに対する神の計画がすべて実現するのを、喜びをもって待ち望んでいるのです。ですから私たちは、さまざまな苦しみや困難に直面した時も喜ぶことができます。それによって忍耐を学ぶからです。忍耐によって私たちの品性が磨かれ、さらに、それによって希望が与えられるのです。こうして、私たちの希望と信仰は強められ、どんなことにも動じなくなるのです。この希望は失望に終わることはありません。それは、神が聖霊を与えてくださり、その聖霊が私たちの心に神の愛を満たしてくださっているからです。」

ローマ人への手紙5章2b～5節[リビングバイブル]

主がご復活され、40日に渡って現れ、神の国について語られ、ご昇天され、見えなくなり、そして弟子たちは約束のもの＝天から与えられる聖霊を待ち望みました。彼らはどのような気持ちでその時を待っていたのでしょうか？

復活なさった主に出会い、大いなる奇跡と主の栄光を見ました。そして、天に昇られる姿を目の当たりにしました。目に見えないお方となった救い主をどのように伝えていくのか？多くのチャレンジがあったと思われます。ただ「聖霊を待ち望みなさい」と言われていただけですから、その他何の特別なこともするわけではありませんでした。もちろん普段の生活はありました。食べるためにその必要を満たさなければなりませんでした。漁師をしているだけでは足りなかったでしょう。様々な慣れないアルバイトもしなければならなかったでしょう。そんな中で彼らの使命を忘れずに、共に励まし合いながら共に祈る生活をしていました。

そして、やがて聖霊が注がれ、大いなる主の働きが開始し、教会も迫害を受けるようになり、そんな中で、迫害者であったパウロに主が直接現れてくださり、大いなる改心がなされました。よほどのことがない限り決して信仰を持たないような自分の考えに凝り固まっていた人物でした。しかし、主に出会い、主を信じ、主のために生きる存在となりました。彼は人からではなく、直接主によって人生を変えられました。それからの彼の生き方は神の恵みに生きる存在となりました。そして、聖霊によって新しい人へと造りかえられました。

そして、誰よりも主のために大いなる困難に立ち向かう器となっていきました。そんな中でも彼の変えられた心は決して翻ることなく、かえってますます、主の素晴らしさを味わい、主と共に生きる人生の豊かさを経験し、多くの人々にシェアしていくようになりました。

私たちの人生も同様です。試練や戦いが多ければ多いほど、自分の弱さを知れば知るほど、かえってますます主の素晴らしさに生きる者へと変えられていくのです。